

評価項目		教員の自己評価集計結果		評価委員の評価	
1	幼稚園教育の基本方針と組織	達成度	留意事項	評価点	留意事項
	園の教育理念・基本方針を指導計画に反映している 自身の役割分担を理解し組織的な仕事に努めている 地域の文化・自然を理解し保育に取り入れている 安全・衛生についての知識を有し適切に対応できる	B	年長において積極的に園外活動を行い、地域の人や自然との かかわりが進む/他学園においては不足を感じている 食についてのアンケートを年少で実施、講座に生かした→食育便りの発行、市の研究会における実践発表 保護者からの情報が無かったお子さんの熱性けいれんが発生→ 救急車の要請/緊急時の対応について再度学びたい	B	自然についての興味が増した。食育についての情報提供が保護者の学びにつながった 園外の活動について、地域の人への参加を呼び掛けては？ 緊急時の対応については、フローチャートを職員全員が把握していると良い 課外活動時の送迎子どもの対応を保護者に徹底したい
2	保育内容の確認(全体) 幼稚園教育要領を理解し保育に生かすとともに保護者に説明できる 子どもの発達状況を情報交換により理解し、必要に応じて保護者に伝える 会議において積極的に意見を述べる	A	業務日誌の記録の再確認、ラインワークスの活用により教員間の情報共有が進んだ 発達課題の理解について、担当者による研究、分析が進むと同時に巡回訪問による専門機関のアドバイスにより理解が進む リフレクションシートの活用により、子ども理解についての意見交換の機会増え、多面的な理解が進む	B	希望する保護者の園活動への参加機会が増え、子どもの集団理解が進むことが期待できる 担任教員だけでなく他の教員においても個々の子どもを理解しており、様子を聞くことができる リフレクションシートの活用はとても良い 伝達内容を理解していない教員がいることもあるので、徹底していくべき
3	保育内容・実務の確認(個々の保育者) 子どもへの言葉づかいや対応は適切である 発達の状況を踏まえ計画をたてるとともに実践においては、子どもの興味関心に応じて柔軟に行う 異年齢でのかかわりに配慮し、環境構成をする その日の保育を振り返り改善に生かす 個人の記録を継続的に行う	B	教育課程の見直しと再編を実施 毎朝の園庭設定において、適宜な話し合いが必要では？ 午後の園庭遊びにおいて、クラスによって差が無いように努めるべき 年長と満3歳児の交流が進み、良い効果が見られた ペアレントトレーニングの実施により、保護者支援につながると同時に教員自身の自己分析が進む	A	教師自身が受容的な態度や言葉がけを心掛けている 異年齢のかかわりが活発で、子ども自身から異年齢の友達の名前が聞かれ互いに愛着を持っていることが大変良い 季節や子どもの様子によって、集団活動、個々の活動を計画的に実施できている
4	研修と研究 研修で学んだことが保育に生かされている 発達障害についての知識や指導方法を自ら学んでいる いじめ・差別について理解している 発達や学びの連続性を理解し進級、進学について子どもや保護者に伝えることができる	B	保育アドバイザーによる保育実践へのアドバイスを受ける →今年度は年少クラスがアドバイスを受ける 他者の視点が入ることで、客観的な保育理解につながった 小学校との接続カリキュラムにおけるアプローチプログラムを作成 →次年度の意見交換に生かしたい 他学年の担当職員においては、小学校の情報が不足していることが伺われる 研究報告については、各教員が講師となって報告をする機会を設けたい	B	年中の時期において、小学校の仕組みを聞いたのは良かった ネイチャーゲーム等特色のある教育や、ワーク等文字の習得にかかわる活動について教育計画としての視点での説明が欲しい 小学校の情報は、全職員が認識できるように努めるべき
5	保護者との関係 保護者と連絡ノート、面談、電話相談により連携を図っている。保護者とともに課題の達成に努める 家庭状況の変化の把握。場合によっては全職員に伝え情報の共有を図る	A	年長を中心に保護者が保育に参加する機会を増やすことで子どもの集団への理解につながった→子どもにとっても良い体験となった 各学年において、家庭との面談の機会を増やした→家庭の状況について全教員において共通認識をもつ	A	クラスだより等の発行が多く、園の様子がよくわかる 保護者が園の活動に参加できる機会が増えたことは有意義だと感じる
6	安全点検 に行う	A	昨年度の不審者対応の避難訓練に対する評価から避難訓練を予告なしで3回実施→教員において理解が進む 丁寧なヒヤリハットの記録により共通理解が進む	A	予告なしでの実施や様々なシチュエーションでの訓練は良い 訓練時に園巻き込みでの訓練はとっても良い 訓練の流れや子ども達への注意喚起なども保護者への伝達があると良い

	遊具や設備の取り扱いや安全性を理解している 不審者への対応を共通理解している		遊具の使い方の確認 起震車体験→保護者の参加も促したい		
7	諸法規の遵守 学校保健法・伝染病予防法 感染症などが発生した場合には保護者に伝えるとともに 消毒などを徹底し予防に努める アレルギー等個々の健康状況を共通理解している 消防法 防災計画に基づいて、防災教育を実施する 虐待防止法 虐待について理解し、家庭状況を把握する	A	園の避難計画、自主防災計画について再計画を実施する 重大事故の把握→骨折など重大事故の場合は経過観察をこまめに行い記録する→市への報告 虐待について、服を脱ぐことが少ない冬場では胸囲測定などを行って観察すべきでは？	A	園で流行している感染症について、その都度アプリで知らせがあるので家庭でも 対策をとったり、通院時に医師に伝えることができた

※評価について

達成度 100% ~90% A
 90%未満~80% B
 80%未満~60% C
 60%未満~ D